

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社ピュアロージュ		
事業所名	グループホーム 亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9番6		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kameoka-yofusou.purerowju.com/">http://kameoka-yofusou.purerowju.com/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館」1F		
訪問調査日	平成30年2月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で安心した生活が出来るように支援させて頂いている。 特に食事面には力を入れており、季節のものはもちろん。その日、その時のニーズに合わせたものや、利用者個人の好みに合わせた料理を、職員が手作りで提供させて頂いている。 行事の際には、ご家族への参加の呼びかけもさせて頂き、職員だけでなく、利用者や家族と一緒に作り上げるイベントを目指して、企画している。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>株式会社ピュアロージュが運営する亀岡陽風荘は、亀岡市の西部、大阪府に隣接した山や川、田畑が広がる環境にあります。平成21年に開設され、2階のグループホームと1階の小規模多機能型事業所は、協働して運営されています。入居者にとって自然に恵まれ長年住み慣れた環境は、安心して「その人らしく」過ごせる場所でもあり、穏やかな表情でゆっくりと過ごされています。散歩や買い物時に地域の人と挨拶を交し、毎月発行している広報誌は、薬局や郵便局、診療所、駐在所、商店等々、戸別配布(34枚)しています。夏祭りのチラシを配布し大勢の参加があります。地域の行事への参加や小学生下校時見守り運動、保育所のベルマーク運動、町内会古紙回収等々を行い、3月には地域の人を招き陽風荘サロンを計画するなど、地域性色濃いに融け込もうと大変努力されている事業所です。刻み、粥、ミキサー食を支援しながら、外食が難しい入居者の楽しみにランチバイキング(7種の副菜やデザート)や早く食べてしまう方には、食べ物を3個の食器に分け職員が対話をしながらゆっくり食べて頂くなどの工夫もあり、それぞれができることをして楽しく過ごされています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の施設を利用したり、近くへの散歩等、出来る範囲では共有は出来ている。	法人の理念に沿って、「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」を事業所理念とし「その人らしさ」を大切にしている。長年自然と土に馴染んで来られた入居者には、そのままの環境の中でその人らしく安心して生活されている。機能低下された入居者に対しても、職員は日々の生活行動をリハビリと捉えて支援し、自立歩行が出来るようになり「その人らしさ」の生活を取り戻されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会の行事への参加等は時々行いが、日常的な交流はほとんど出来ていない。	町内会に加入し回覧板や駐在所からも地域の情報を得ている。近隣の散歩や買い物時に地域の人と挨拶を交している。事業所の夏祭りのチラシを地域に配り呼び掛けて毎年参加者がある。町民文化祭に入居者の作品を出展し楽しみに見に行っている。広報誌は商店や郵便局にも配布し掲示している。各家にも配布している。小学生の下校時見守り運動、保育所のベルマーク運動、町内会古紙回収などで地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流自体が少ないため、地域貢献には繋がっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議での意見は、全体会議やユニット会議に議題として話し合われ、サービスの向上に向けての取り組みが行われている。	会議は、町内会長、民生児童委員、駐在所、グループホーム家族会副会長、市担当職員、地域包括友愛園などが参加している。事業所は、入居者の状況、活動内容、事故、研修、職員異動、来月の予定などを報告している。町内のイベント情報を貰い活用している。水害時の避難経路の安全性などについて意見交換をしている。災害時の状況に応じた臨機応変な対応で考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や、必要な時の連絡はあるものの、日頃の連絡は見られない。	市の担当者は、運営推進委員会に出席されており事業所の実情を理解して貰っているのでも何でも相談しやすい関係を築いている。運営推進会議録や広報誌(陽風荘だより)などをその都度担当者を持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、夜間以外は施錠をしない。徘徊に対するの見守り等、拘束しないケアを目指している。	法人は「身体拘束ゼロ対策などの行動制限に関わる規程」を定め、重要事項説明書には、身体拘束を行わないことを明記している。身体拘束と虐待の研修ではビデオを見ながらポイント場面で意見交換をして、言葉による拘束も含めて職員の意識を高め拘束をしないケアに取り組んでいる。	

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて学ぶ機会を持ち、入浴の際のアザや傷の確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はあるものの、各職員へまでは理解は及んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解して頂けるよう心掛けている。又、契約後の家族の不安や疑問においても、十分な説明を行い理解してもらえるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、及び面会時に家族からの要望の聞き入れ、意見箱の設置等を行いそれらを運営に反映させており、外部者へは掲示物等にて表せる機会を設けている。	面会時などは、常に家族の意向を聞く姿勢で職員は臨んでいるが、個人的なケアに繋がる話が多 く少なく意見もない。27年にサービス向上委員会が入居者や家族に対し、接遇や食事についてアンケートを行っているが、運営に反映されていない。	入居者や家族に対しアンケートを実施しているが、結果の纏めや考察の確認ができなかった。貴重な意見を大事にして運営に反映されるよう取り組まれては如何でしょうか。調査結果と考察は家族に開示される事も必要でしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や、普段より意見・提案を聞く機会を設け、出来る範囲での反映はしている。	月に一度の全体会議は2事業所が合同で行い、グループホーム会議も月1回行っている。職員は、意見や議題を事前に提案する「議題ノート」を共有し、会議では活発な意見交換をしている。入居者の重度化に伴い楽しい外食に代わる「ランチバイキング」を職員が提案し楽しい機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の実績や職場環境をまとめ、代表者へ報告し、より良い条件・環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の機会は多いが、外部研修の機会は少ない。受ける機会自体は少なくはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一事業所内での行事を通しての交流や、ブログでの状況報告等を行っているものの、他事業所との交流は行えていない。見学者としては来訪される。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とできる限りのコミュニケーションを取り、医療的な面や生活面の不安を聞かせてもらい、安心を確保出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を聞かせてもらい、よく話し合い、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や現状を聞かせてもらい、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬を忘れず、共に暮らす者同士の関係を築き合う努力はしているが、時と場合によっては、一方の立場として見てしまうことがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に、家族へ状況の報告・相談をすることで、共に支え合っている。協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は常時可能で、手紙や電話の取り次ぎも行っている。又、家族へは気軽に来訪出来るような声かけに努めている。	面会は、何時でも受け入れる体制だが家族以外は少ない。最近特に重症化された方には、家族や親戚の来訪者が多くなっているが、甥御さんの来訪は、笑顔して特に喜ばれている。最近、入居者の変化に伴い馴染みの場所や出会いの機会を計画し出掛けることが難しくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関わり合 い、支え合いを大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後の相談や支援は大きくは 見られないが、必要に応じて、出来る範囲で 努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の会話や行動から思いを汲み取り、意 思表示の困難な方からは家族からの情報も 視野に入れ、本人にとって何が良いかを考 えている。	利用前に管理者と介護支援専門員は、本人や家 族から「その人の生活歴や心身の状況、今後の生 活の意向」を聞き取り担当介護支援専門員からの 情報も踏まえてアセスメントしている。その後は、 日々の会話や行動、表情、仕草などを注意して見 守り記録してケアカンファレンスで話し合っ共有 し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人・家族・面接記録等により、それまで の情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の流れの把握や、本人の意思確 認を行い、ケース記録・申し送りノートにて、 現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者と共に、ご本人の思いに 沿った介護計画を作成している。	毎月、介護支援専門員と担当職員、リーダーがモ ニタリングを行っている。事前に家族の意向を聞き 取り、看護師が参加してモニタリング時のメンバ ーが2~3ヶ月の間隔で介護計画を見直している。 日々の記録には支援事項や経過記録が多く、そ の人の様子を思い描けたり姿が見えるような記録 が少なかった。	介護計画の裏付けとなる日々の経過記録 が必要である。支援時の表情や言葉、楽 しい、嬉しい時の表情、気持ち(推察も含 め)など、その人を想像して見えるようあり のままを記録されては如何でしょうか。重 症の方は、特に変化や現状に即した介護 計画を随時作成し支援されるよう期待し ている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化でもケース記録に記入し、職員 間での情報の共有、又は介護計画への反 映に努めている。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に応じて、理美容やマッサージ等、出来る範囲でその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに協力して頂き、施設行事等は行っているが、それ以外の地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週金曜日に、提携している医療機関の往診があり、それ以外にも専門医、又は今までのかかりつけ医への受診も、希望に応じて行っている。	入居者は、月2回の協力医(内科)と必要に応じて歯科の往診を受けている。かかりつけ医や他の専門医受診は、家族が同行し書面で双方向の情報を交し適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時は、看護師による24時間オンコール体制で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関の看護師に情報を伝えた上での電話相談、アドバイス、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を往診医師より医療機関へ送ってもらい、退院時には病院関係者との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前に説明・確認を取っており、ご本人の状態の変化や家族の意向に沿った内容への再確認も行っている。又、その内容はユニット会議等で話し合われる。	「重度化した場合における対応に係る指針」を文書化して、看護師による24時間オンコール体制を明確にしている。利用時には、これを丁寧に説明し家族は「事前意向確認書」を記入して貰っているが随時変更も可能である。昨年は家族の思いを医師、看護師、職員のチームで支え、初めての看取りを体験している。この体験からの振り返りをして次に活かしたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習や緊急時対応マニュアルはあるもの、定期的な研修は行っておらず、緊急時には不安は残る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会いの元、避難・防災訓練を実施しているが、地域との協力体制は築けていない。	消防署の協力を得て火災による避難訓練を実施し、2回目の夜間想定訓練は、職員に突然の電話連絡網対応を実施している。AEDの使用方の指導も受けている。自衛消防団も設置しており、地域のハザードマップもある。過去1回のみ事業所近くの本梅川が氾濫し1階に被害があった。事業所は、耐震建築で備蓄も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切に、プライドやプライバシーを傷つけない、否定しない声かけを心掛けている。	基本理念を基に「家庭的な雰囲気の中で、利用者お一人お一人を尊重した温かい介護を提供します」と亀岡陽風荘倫理要綱に明記し、誇りやプライバシーを損なわないよう配慮しながら支援している。入居者の名前は「さん」で呼び過度な馴れ合いに注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも、自己決定して貰えるような声かけをし、思いや希望を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないように、ご本人の希望に沿った一日を送って頂けるように支援はしているが、都合上、業務を優先してしまうことはある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪、自身での服選び、訪問理容等、出来る範囲では支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人に合わせた食器選びから、調理の手伝いや片付け。個々に合わせた調理や食事形態を取り支援している。	入居者の好みを聞きながら2事業所の職員が交互に献立している。入居者はテーブルを拭くなど出来る事をして貰っているが、重度化に伴い現在はキッチンの近くに集まり、職員が作る料理の音や香りを楽しんで貰っている。粥、刻み、ミキサー食なども支援しながら、雑祭や敬老会、クリスマスなどの行事食や2事業所合同のランチバイキングなどの行事食も作って入居者に楽しんで貰っている。入居者は、それぞれの使い慣れた食器を持参し使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談の上、食事量の調整・水分の確保に努めている。又、個々の状態に合わせて、ジュースやゼリー等も使用している。		

京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、義歯は夜間に洗浄を行っている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、定期的に排泄の促し、声かけを行っている。又、利用者個々に応じて、見守り・付き添い・介助にて支援をしている。	一人ひとりの排泄状況を水分摂取量と共に記録して把握し、トイレへの誘導支援をしている。入居者それぞれの様子を見守り表情や仕草の変化を把握して対応する場合もある。排便をスムーズに促すために水分量やさつま芋などの食材を用いるよう配慮しているが、止む無く薬を用いる場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の調整、体操や運動、腹部マッサージにて予防に取り組んでいる。又、服薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆず湯等の季節のお湯。職員とのコミュニケーションで楽しい入浴を支援させて頂いているが、職員・業務の都合で時間が決まってしまうことはある。無理強いするような入浴は行っていない。	入浴は、週2～3回を基本とし午前中に入っている。家庭的な個浴槽の中には腰掛け用の段差を設けて、ゆず湯などの季節湯もゆっくりとコミュニケーションしながら半身浴ができるよう工夫している。リフトを導入し、入居者の状況の変化に応じられるよう対応している。嫌がる入居者には、試行錯誤して変化させながら対応し基本の回数を確保するよう努めている。同姓介助を基本としているが異性介助で上手く対応できる場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の入眠は、利用者個々のリズムに合わせて促しを行っている。又、安易な眠剤の導入は行わないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援、症状の変化の確認、薬の管理は行っているが、全職員が利用者個々の薬の内容の把握・理解をしているとは言い難い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に合った役割分担(テーブル拭き、洗濯たたみ等)、行事やその準備、レクリエーションを行い支援している。		



京都府 グループホーム 亀岡陽風荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩等にて外出の支援は行っているが、家族との協力での外出は出来ていても、地域の人々との協力は出来ていない。	職員と一緒に近隣のスーパーへ週2回食材購入に出掛けている。温かい日は車椅子の利用者も周辺を散歩して近所の人と挨拶を交している。今年、氏神社(加舎)への初詣に行った。昨年は、家族と一緒に季節折々の花見や紅葉狩りを計画していたが、入居者の重度化に伴い実施出来なかった時もあり、徐々に外出が厳しい状況になってきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人のお金は事務所にて保管しており、必要に応じて家族の許可を得た上で使用している。買い物時はご本人に選んで頂き、職員が管理・使用をする形を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたら利用者ご本人へ確認を取り、電話の取り次ぎも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や清潔の保持、空調管理に努め、転倒事故等が起きないような物の配置を考えている。又、季節毎の飾り付けや行事写真の掲載、観葉植物等を設置し、工夫をしている。	南側が全面ガラスのリビングは、陽光があり温かく明るい。遮光にはカーテンを用い室温、湿度管理で快適な環境に配慮している。2階からの長閑な田園風景は心安らぐ景色である。テーブルの角を丸くして利用者の危険防止を工夫している。キッチン周辺やリビングは、綺麗に整理整頓されており臭気は皆無である。入居者は穏やかな表情で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファ、和室等を各々が自由に利用して、思い思いに過ごせる場所は提供している。又、必要であればその中に職員も入らせて頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ご本人の馴染みのある物、使い慣れた物を持ってきて頂き、家族と相談し、ご本人にとって危険がないかを確認した上で居室内で使用して頂いている。	窓が大きく明るい洋風な居室にはエアコンとクローゼットが設置してある。ベッドや整理筆筒、テレビ、テーブルと椅子など馴染みのある物を持ち込んでいる。家族の写真や誕生日に頂いた色紙などを飾り、心休まる場所を工夫している。入り口の横には、職員が工夫して手作りのフェルトの可愛い名札を用いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に各々の表札を付け、各所に手すりを設置。建物内に何があるかはその都度説明をし、自立した生活を促している。		